2024年9月30日 マーケティング部

商工中金景況調査 2024年8月調査結果(定例分)



調査要領



1.目的・調査事項	●目的 中小企業の、景況感をはじめとする実態のタイムリーな把握 ●調査事項 (1) 景況感 今月及び先行き (2) 業況判断(売上、販売価格、仕入価格、雇用状況、生産・営業用設備、資金繰り)今月及び先行き (3) トピックス(中小企業の財務戦略について) ※トピックス調査分は10月中に公表予定
2. 回答期間・調査頻度	●回答期間 2024年8月16日~9月2日●調査頻度 概ね四半期毎(初回調査:2020年2月)
3. 対象企業	商工中金の取引先中小・中堅企業
4. 企業数	有効回答数 2,369社 (アンケート依頼数 3,734社、回答率 63.4%)
5. 調査方法	インターネットによる直接回答
■ ご照会先	商工中金 マーケティング部(高澤) TEL:080-7005-3663

調査回答企業の属性(業種別)



		回答企業数	構成比(%)			回答企業数	構成比(%)
製造業		1,075	45.4	非製造業		1,294	54.6
食料品		137	5.8		建設業	77	3.3
化学		75	3.2		卸売業	380	16.0
鉄・非	卡鉄	85	3.6		小売業	196	8.3
印刷第	Ě	55	2.3		運輸業	357	15.1
金属製	Ų 디	177	7.5		飲食・宿泊	111	4.7
はん用	l、生産用、業務用機械	159	6.7		情報通信業	36	1.5
電気機		72	3.0		その他非製造業	137	5.8
輸送月	用機器	130	5.5				
その代	也製造業	185	7.8				
全産業						2,369	100

(注)各項目の構成比の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合がある(以降頁同様)

調査回答企業の属性(地域別)



地域		回答企業数	構成比(%)	地域	回答企業数	構成比(%)
	北海道	59	2.5	北陸	88	3.7
	東北	182	7.7	近畿	375	15.8
	関東	704	29.7	中国	187	7.9
	甲信越	153	6.5	四国	92	3.9
	東海	277	11.7	九州・沖縄	252	10.6
全地域					2,369	100

(注)各項目の構成比の合計は、四捨五入の関係で100%とならない場合がある

地域区分:東北(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)、関東(茨城、栃木、群馬、東京、埼玉、千葉、神奈川)、 甲信越(山梨、長野、新潟)、東海(静岡、愛知、三重、岐阜)、北陸(富山、石川、福井)、 近畿(大阪、滋賀、京都、兵庫、奈良、和歌山)、中国(鳥取、島根、岡山、広島、山口)、 四国(香川、徳島、愛媛、高知)、九州・沖縄(福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)



1. 景況感

~8月の景況判断指数は3期ぶり「好転」超

8月の景況判断指数は3期ぶり「好転」超



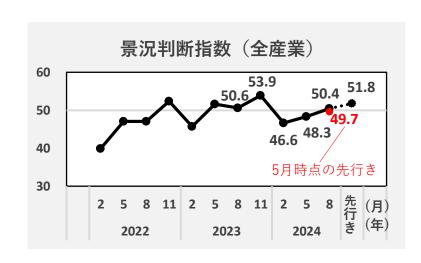
今月の景況判断指数(全産業)は50.4(前回比 $+2.1_{\text{#1}}$ 先行きの景況判断指数は51.8 (今月比+1.4ポイント)

- □ 8月・・ 「好転 | 15.0%、 「不変 | 70.9% 「悪化 | 14.1%
- □ 先行き…「好転 | 16.9%、「不変 | 69.7% 「悪化 |13.3%
- 注1) 景況判断指数の算出式

景況判断指数=((好転企業数 \times 1+不変企業数 \times 0.5+悪化企業数 ×0) ÷ 当該設問への回答企業数) ×100

指数が50を上回っていれば調査対象企業群の景況判断が概ね1~3か月 前と比べて好転したことを表し、50を下回っていれば景況判断が概ね 1~3か月前と比べて悪化したことを表す。50が中立となる。指数の 範囲0.0≦景況判断指数≦100.0

注2)景況判断は、「今月(概ね1~3か月前と比べて)」につき3つの 選択肢=「1.好転 | 「2.不変 | 「3.悪化 | から選択。 「先行き (向こう3か月程度の見通し) |についても同様。





<2024年8月の景況感>

製造業は「悪化」超幅縮小、非製造業は「好転」超幅拡大

業種名	5月	8月 [5月時点の先行き]	(8月一5月)	先行き	[回答数(8月	1)
全産業	48.3	50.4 [49.7]	+2.1	51.8	(2,364)
製造業	46.1	48.3 [49.6]	+2.2	51.5	(1,073)
非製造業	50.1	52.2 [49.8]	+2.1	52.1	(1,291)
食料品	49.5	54.7 [51.4]	+5.2	55.8	(137)
化学	53.4	48.0 [50.7]	-5.4	52.0	(75)
鉄・非鉄	40.4	41.2 [44.5]	+0.8	50.0	(85)
印刷業	43.8	44.5 [45.8]	+0.7	48.2	(55)
金属製品	41.7	47.4 [50.6]	+5.7	50.0	(176)
はん用、生産用、業務用機械	48.4	50.6 [52.0]	+2.2	50.3	(159)
電気機器	45.9	47.9 [49.3]	+2.0	52.1	(72)
輸送用機器	46.5	47.7 [52.2]	+1.2	51.9	(129)
その他製造業	46.2	47.3 [47.1]	+1.1	51.6	(185)
	52.4	50.6 [52.4]	-1.8	55.8	(77)
卸売業	47.6	48.2 [46.0]	+0.6	49.9	(379)
小売業	45.8	51.3 [45.8]	+5.5	48.7	(196)
運輸業	54.2	55.8 [55.2]	+1.6	56.2	(355)
飲食・宿泊	53.3	61.3 [55.9]	+8.0	53.6	(111)
情報通信業	58.9	51.4 [60.7]	-7.5	48.6	(36)
その他非製造業	48.0	49.3 [44.3]	+1.3	49.6	(137)

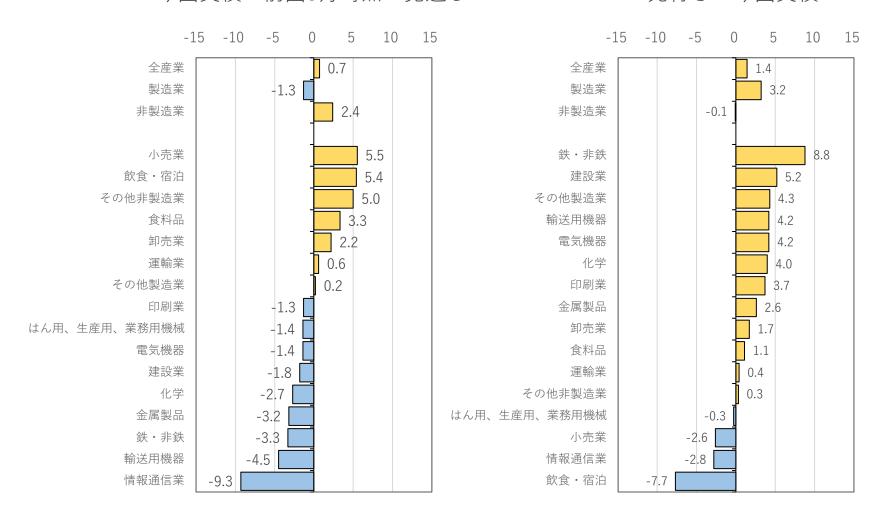
⁽注)その他製造業は 紙・パルプ、繊維、窯業・土石、木材・木製品を含む。その他非製造業は 不動産・物品賃貸業、サービス業を含む。



< 2024年8月の景況感(前回5月調査時点の先行き、今回調査の先行きとの比較) > 製造業はほぼ全業種で先行き指数の改善を見込む



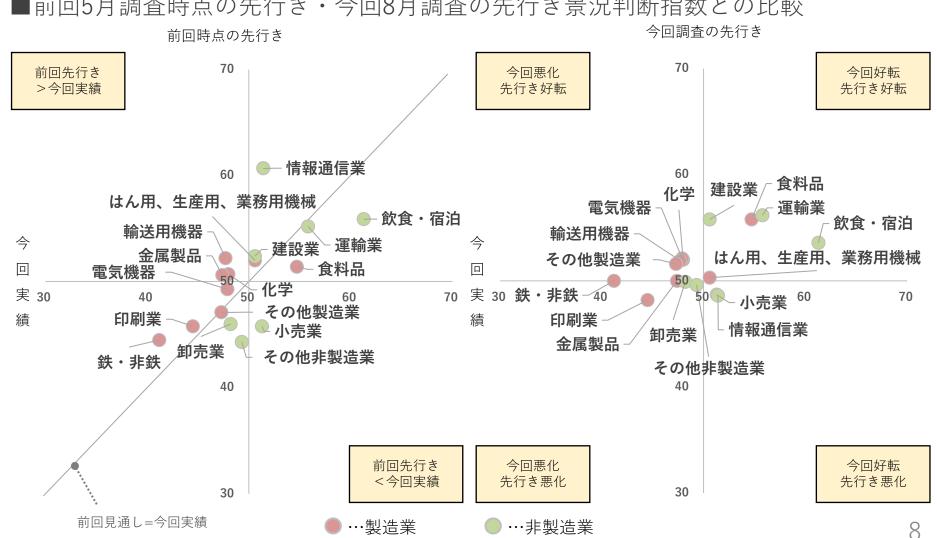
先行き一今回実績





< 2024年8月の景況感(前回5月調査時点の先行き、今回調査の先行きとの比較)> 散布図

■前回5月調査時点の先行き・今回8月調査の先行き景況判断指数との比較



<2024年8月の景況感> **業種別の回答構成比**



	5月	(前回)			8月			先行き	
13.8	68.9	17/3	全産業	15.0	70.9	14.1	16.9	69.7	13/3
12.3	67.6	20.1	製造業	13.0	70.5	16.5	17.4	68.1	14.5
15.1	70.0	14.8	非製造業	16.6	71.3	12/2	16.5	71.1	12.4
14.7	69.7	15.6	食料品	19.0	71.5	9/5	20.4	70.8	8.8
24.7	57.5	17.8	化学	14.7	66.7	18.7	18.7	66.7	14.7
5.5	69.9	24.7	鉄・非鉄	5.9	70.6	23.5	17.6	64.7	17/.6
12.5	62.5	25.0	印刷業	14.5	60.0	25.5	14.5	67.3	18.2
10.7	61.9	27.4	金属製品	11.9	71.0	17.0	18.6	62.7	18.6
12.7	71.4	15.9	はん用、生産用、業務用機械	14.5	72.3	13.2	15.2	70.3	14.6
10.8	70.3	18.9	電気機器	13.9	68.1	18.1	21.1	62.0	16.9
10.6	71.7	17/7/	輸送用機器	11.6	72.1	16.3	15.4	73.1	1/1/25
11.2	70.0	18.8	その他製造業	11.4	71.9	16.8	16.3	70.7	13.0
15.9	73.0	11/1	建設業	11.7	77.9	10.4	18.2	75.3	6.5
13.0	69.3	17.8	卸売業	14.2	67.8	17.9	16.6	66.6	16.8
11.7	68.3	20.0	小売業	15.3	71.9	12/8	14.9	67.5	17/5
19.3	69.7	11.0	運輸業	18.9	73.8	7/3	18.9	74.6	6.5
23.9	58.7	17.4	飲食・宿泊	31.5	59.5		19.8	67.6	12.6
21.4	75.0	3.6	信報通信業	11.1	80.6	8/3	11.1	75.0	13/9
7.3	81.3	11.4	その他非製造業	10.9	76.6	12/4	10.3	78.7	11.0
0	50	100		0	50	100	0	50	100
■好転	□不変	☑悪化 (%)		■好転	□不変	☑悪化 (%)	■好転	□不変	悪化 (%)

<2024年8月の景況感(地域別の景況感)> 全地域で5月比指数は改善



地域名	5月	8月	(8月一5月)	先行き	回答数(8月)	構成比	(%)
		[5月時点の先行き]				製造業	非製造業
全国	48.3	50.4 [49.7]	+2.1	51.8	(2,364)	45.4	54.6
北海道	49.1	57.8 [50.0]	+8.7	49.1	(58)	22.4	77.6
東北	44.9	50.3 [47.4]	+5.4	54.4	(182)	31.9	68.1
関東	48.8	49.1 [49.7]	+0.3	52.1	(703)	45.5	54.5
甲信越	44.9	47.7 [54.1]	+2.8	49.7	(153)	57.5	42.5
東海	50.0	52.3 [50.2]	+2.3	51.6	(277)	57.4	42.6
北陸	45.6	54.5 [49.4]	+8.9	52.3	(88)	48.9	51.1
近畿	49.3	49.7 [50.5]	+0.4	49.9	(375)	49.6	50.4
中国	50.6	54.6 [50.3]	+4.0	57.2	(186)	43.5	56.5
四国	42.8	47.3 [41.3]	+4.5	43.4	(91)	39.6	60.4
九州・沖縄	48.7	49.6 [49.3]	+0.9	52.8	(251)	35.5	64.5

(注)全国ベースで調査対象企業の抽出を行っているため、地域ごとの業種構成は考慮していない。 そのため、各地域間の比較や、全国と各地域を比較する際は注意を要する。

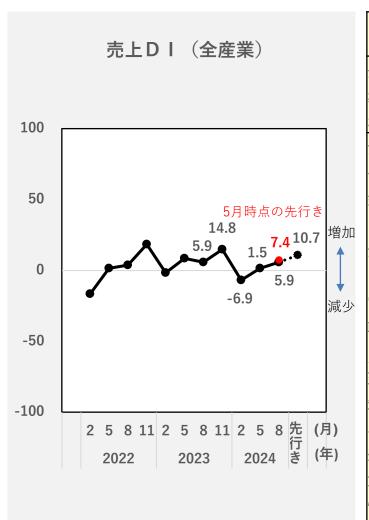


2. 業況判断

~【仕入価格】「上昇」超幅は縮小



【売上】製造業は「減少」超、非製造業は「増加」超が続く



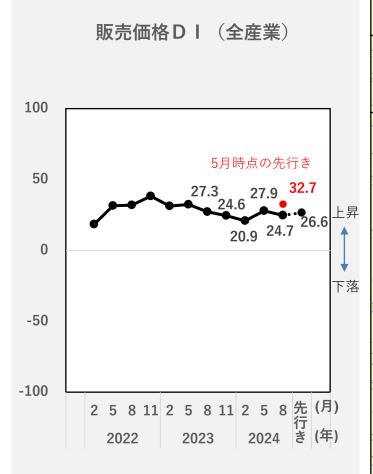
	24年5月	24年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	1.5	5.9 [7.4]	10.7
製造業	4 .0	▲ 0.5 [7.5]	9.8
非製造業	6.3	11.2 [7.4]	11.5
食料品	9.2	23.5 [10.9]	22.6
化学	16.4	▲ 1.3 [17.8]	6.7
鉄・非鉄	▲ 13.7	▲ 17.6 [2.7]	1.2
印刷業	▲ 14.6	▲ 14.5 [▲ 6.3]	5.5
金属製品	▲ 13.1	▲ 5.7 [3.6]	10.2
はん用、生産用、業務用機械	▲ 2.4	7.6 [11.1]	4.4
電気機器	▲ 11.0	▲ 2.8 [6.9]	5.6
輸送用機器	▲ 8.8	▲ 3.1 [6.2]	7.8
その他製造業	0.0	4 .9 [8.8]	14.1
建設業	4. 8	5.3 [3.2]	17.1
卸売業	2.4	1.6 [1.5]	6.3
小売業	▲ 5.0	10.3 [▲5.0]	6.3
運輸業	19.0	20.2 [21.3]	20.0
飲食・宿泊	5.4	31.8 [20.7]	15.3
情報通信業	17.9	8.3 [14.3]	0.0
その他非製造業	5.7	2.9 [▲1.6]	8.0

(DIの定義は資料末尾に記載) 1/2

<2024年8月の業況判断>

Aを思う。未来を思う。 **商工中金**

【販売価格】「上昇」超幅は縮小

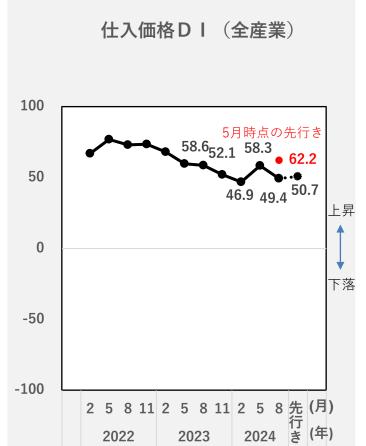


	24年5月	24年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	27.9	24.7 [32.7]	26.6
製造業	20.8	20.7 [28.6]	24.9
非製造業	33.9	28.1 [36.2]	28.1
食料品	25.7	27.7 [23.6]	32.8
化学	15.1	18.7 [17.8]	25.3
鉄・非鉄	24.7	24.7 [32.9]	14.1
印刷業	20.8	29.1 [29.2]	32.7
金属製品	16.2	16.0 [27.5]	24.3
はん用、生産用、業務用機械	17.5	17.0 [21.6]	18.4
電気機器	13.7	12.5 [29.2]	23.6
輸送用機器	24.8	24.6 [39.8]	22.5
その他製造業	25.9	20.0 [32.7]	29.7
建設業	27.0	26.3 [27.0]	25.3
卸売業	33.1	23.9 [39.6]	26.1
小売業	41.7	32.3 [40.0]	36.5
運輸業	33.3	27.7 [30.4]	25.7
飲食・宿泊	38.7	53.2 [51.6]	37.3
情報通信業	32.1	11.1 [25.9]	25.0
その他非製造業	26.4	19.7 [30.6]	22.6

 $(\mathsf{DI}\mathsf{O}$ 定義は資料末尾に記載) 1



【仕入価格】「上昇」超幅は縮小

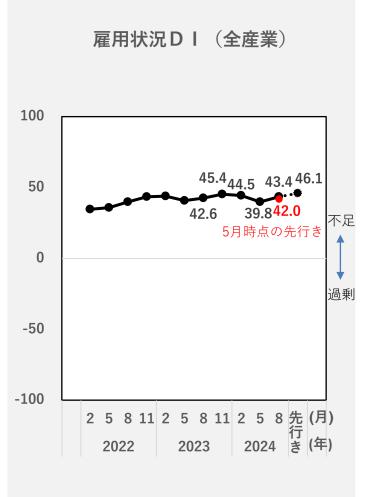


	24年5月	24年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	58.3	49.4 [62.2]	50.7
製造業	54.3	47.7 [58.9]	48.1
非製造業	61.7	50.7 [65.0]	52.8
食料品	54.1	64.2 [60.0]	62.8
化学	53.4	46.7 [68.5]	52.0
鉄・非鉄	47.9	36.5 [60.3]	24.7
印刷業	62.5	60.0 [75.0]	72.7
金属製品	53.9	44.6 [61.1]	48.9
はん用、生産用、業務用機械	63.5	50.9 [58.4]	49.4
電気機器	49.3	40.3 [54.2]	42.3
輸送用機器	51.3	44.6 [50.4]	41.5
その他製造業	52.9	42.7 [55.0]	44.3
建設業	66.7	56.6 [69.4]	53.9
卸売業	53.6	44.7 [58.9]	46.7
小売業	56.7	46.4 [58.3]	51.5
運輸業	66.8	51.2 [69.4]	53.5
飲食・宿泊	78.5	80.7 [79.3]	75.2
情報通信業	60.7	44.4 [64.3]	63.9
その他非製造業	64.5	47.1 [67.8]	48.1

(DIの定義は資料末尾に記載) 14



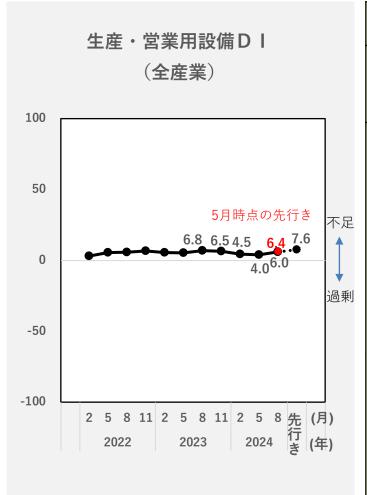
【雇用状況】高水準の「不足」超が続く



	24年5月	24年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	39.8	43.4 [42.0]	46.1
製造業	26.0	32.1 [29.0]	35.6
非製造業	51.6	52.8 [53.0]	54.8
食料品	34.9	38.0 [36.7]	47.4
化学	39.7	44.0 [41.1]	46.7
鉄・非鉄	32.9	36.5 [37.0]	42.4
印刷業	16.7	36.4 [14.6]	34.5
金属製品	25.0	30.7 [30.5]	35.6
はん用、生産用、業務用機械	21.4	36.1 [25.6]	34.8
電気機器	13.7	15.3 [23.6]	22.2
輸送用機器	20.4	25.0 [23.0]	28.7
その他製造業	27.6	29.3 [26.9]	30.4
建設業	66.7	61.0 [69.8]	67.5
卸売業	36.3	32.6 [36.6]	35.0
小売業	56.1	64.6 [57.2]	64.9
運輸業	63.5	62.5 [64.3]	63.2
飲食・宿泊	56.5	70.6 [64.1]	70.6
情報通信業	42.9	52.8 [42.9]	55.6
その他非製造業	47.9	47.4 [49.6]	53.7



【生産・営業用設備】小幅の「不足」超が続く

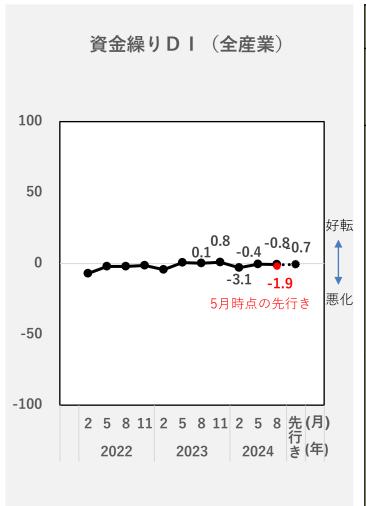


	24年5月	24年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	4.0	6.0 [6.4]	7.6
製造業	▲ 0.1	3.6 [3.2]	6.2
非製造業	7.6	7.9 [9.2]	8.8
食料品	13.8	19.0 [14.5]	21.9
化学	2.7	5.3 [5.5]	9.5
鉄・非鉄	2.7	▲ 1.2 [4.1]	1.2
印刷業	▲ 14.6	3.6 [▲10.4]	7.3
金属製品	▲ 2.4	1.1 [1.2]	4.5
はん用、生産用、業務用機械	1.6	1.9 [4.8]	4.5
電気機器	▲ 6.8	▲ 9.7 [0.0]	4 .2
輸送用機器	▲ 2.7	▲ 2.3 [3.5]	▲ 0.8
その他製造業	▲ 1.8	7.0 [0.0]	7.0
建設業	3.3	1.3 [5.0]	2.6
卸売業	5.4	3.2 [5.7]	4.0
小売業	7.3	6.2 [8.5]	6.3
運輸業	12.6	17.0 [16.0]	17.1
飲食・宿泊	13.2	11.2 [14.4]	12.1
情報通信業	▲ 7.1	▲ 5.6 [▲ 7.1]	0.0
その他非製造業	3.3	5.1 [5.0]	8.0

 $(\mathsf{DI}\mathsf{O}$ 定義は資料末尾に記載) 1



【資金繰り】製造業を中心に小幅の「悪化」超が続く



	24年5月	24年8月 [5月時点の先行き]	先行き
全産業	▲ 0.4	▲ 0.8 [▲1.9]	▲ 0.7
製造業	▲ 2.6	▲ 3.9 [▲ 3.7]	▲ 1.7
非製造業	1.4	1.9 [▲0.4]	0.1
食料品	▲ 0.9	4.4 [2.7]	1.5
化学	▲ 2.7	▲ 5.4 [▲ 2.7]	5.4
鉄・非鉄	▲ 9.6	▲ 10.6 [▲9.6]	▲ 9.4
印刷業	▲ 4.2	▲ 9.1 [▲ 4.2]	▲ 3.6
金属製品	▲ 7.2	▲ 4.0 [▲ 5.4]	▲ 5.6
はん用、生産用、業務用機械	▲ 0.8	▲ 3.8 [▲ 3.2]	▲ 5.1
電気機器	▲ 1.4	▲ 8.3 [▲8.3]	▲ 1.4
輸送用機器	0.0	▲ 2.3 [▲ 1.8]	0.8
その他製造業	0.6	▲ 4.3 [▲ 3.5]	2.2
建設業	14.3	1.3 [3.2]	1.3
卸売業	0.6	1.8 [▲0.9]	▲ 0.8
小売業	1.1	5.1 [▲1.1]	2.1
運輸業	2.0	▲ 0.3 [0.3]	▲ 1.1
飲食・宿泊	▲ 3.2	▲ 0.9 [2.2]	0.0
情報通信業	0.0	2.8 [▲3.6]	0.0
その他非製造業	0.0	5.1 [▲ 2.5]	2.2

(DIの定義は資料末尾に記載) 1



(参考) 業況判断DIの定義

業況判断	各項目の「今月」および「先行き」について、下記3つの 選択肢(1.~3.)の中から、調査対象企業自身の業況に ついての判断(業況感)に該当するものを選択する
DIの算出方法 (Diffusion Index の略)	①売上…「1.増加」「2.不変」「3.減少」 ②販売価格…「1.上昇」「2.不変」「3.下落」 ③仕入価格…「1.上昇」「2.不変」「3.下落」 ④雇用状況…「1.不足」「2.適正」「3.過剰」 ⑤生産・営業用設備…「1.不足」「2.適正」「3.過剰」 ⑥資金繰り…「1.好転」「2.不変」「3.悪化」 業況判断DI=「1.」-「3.」の企業割合(%) DIの範囲▲100.0 ≤業況判断DI≤100.0 ②販売価格、③仕入価格、⑥資金繰りは「今月」はおおむね1~3か月前と比べて、「先行き」は今月と比べた向こう3か月程度の見通しについて、それぞれ選択肢から選んで回答。 ④雇用状況、⑤生産・営業用設備は、調査対象企業が「適正」と考えている水準を基準として、「今月」と「先行き」の状況を、それぞれ選択肢から選んで回答。



景況感・業況判断に関連する自由記載から

【売上好調】

5~7月はリーマンショック以降最高の売上を記録できた。その反動で先行きは売上や景況感が減少・悪化するだろうが、前年とくらべると悪くないと思う。(鉄・非鉄)

【2024年問題を追い風とした運賃交渉】

ドライバーの賃上げや燃料費上昇などによる運賃改定の交渉の際、荷主がこちらの要請に耳を傾けるようになってきた。(運輸業)

【賃上げによる個人消費への影響】

カレンダーの並びによるものか、お盆期間中は 帰省客が例年より多く、売上にも好影響があった。賃上げが進む首都圏の恩恵を受けたと思う。 8月下旬以降、通常ベースに戻った際に売上、 客数がどうなるか注視している。(小売業)

【エネルギーコスト上昇】

売上は好調だが、人手不足に起因して人件費が 高騰しているほか、電気・ガスのコスト上昇に より利幅が思ったほどにはない。(飲食・宿泊)

【半導体市況について】

在庫調整にて長らく新規受注が止まっていた通信機器は先納期品の前倒しが急遽発生しており、 今後の受注回復に期待するとともに各社一斉の 急発注の懸念がある。(電気機器)

【豊漁の影響】

今年は豊漁のため、漁業部門、問屋部門が特に 好調。食品部門では原材料費が高騰しているが、 ポストコロナ需要によって好転。向こう3ヶ月 は豊漁が予想されるため、魚価が下がるとみて いる。食品部門は年末までは原材料の高騰が続 くと思われ、10月から売価を引き上げるが、販 売数量の落ち込みが懸念される。(食料品)

【景況感と為替動向】

首都圏を中心に取引先ホテルの宿泊稼働率が上 昇傾向にある。一方で、燃料単価が上昇してお り、業績の足かせとなっている。今後の為替動 向によりこれらの状況も変わる可能性があるの で注視したい。(その他製造業)



景況感・業況判断に関連する自由記載から

【米不足の影響】

全国的な米不足により、今年の春ごろから玄米 の市場価格が上昇。仕入は昨年秋に大部分が完 了していたため、仕入額に対して売上額が伸び 景況感は好転した。ただ今後については新米の 仕入価格の上昇が予想されるため、上記のよう には利益が伸びないと想定している。(卸売業)

【下請法改正の影響】

11月以降、下請法改正のため手形・でんさいの支払サイトが60日に短縮するので、その分の資金繰りのために借入が必要となる。政府の要請もあり、弊社は対応する予定。(卸売業)

【スマートフォン関連需要について】

スマートフォン向けマイクロコネクタの受注が 大きく減少している。一方で来期モデルの受注 が決定し、設計開発部門は繁忙。(金属製品)

【自動車メーカー認証不正の影響】

当社は新工場への移転による生産性向上や人材育成、価格転嫁などにより業績好転。ただ、業界全体では自動車メーカーの認証不正問題が最大手まで波及し、今年度は総じて苦しい。昨年度は外注業者を探すのが困難なほどであったが、現在は手待ち状態の業者も多いように感じる。8月に入り円安・株高が反転しているように見えるが、これまでのコスト上昇局面で価格転嫁・賃上げが遅れた企業は今後苦しいのではないかと思う。(はん用、生産用、業務用機械)

【自動車認証不正の影響】

主力加工品である合成皮革用基布が自動車認証問題等により大幅に受注減少。インテリア関連商材、生活資材商材ではカバー出来ず不安定な生産体制を余儀なくされており、効率性が落ちている。(その他製造業)

【自動車整備士不足】

業界全体の問題であるが、自動車整備士の不足は一段と強く感じる。(小売業)

(A を思う。 未来を思う。 **商工中金**

景況感・業況判断に関連する自由記載から

【為替・金利変動による影響】

為替の乱高下による自動車産業の動向が気がかり。また、長期借入は基本固定金利で借りているが、新規設備投資等の借入時の金利が上昇するのか、不安視している。(輸送用機器)

【印刷業界の業況悪化】

自社と同規模あるいは小規模な同業他社の倒産が相次いでおり、いずれはなんらかの影響があるとみている。また、直接の取引先でも信用不安の先があり、注意を要している。(印刷業)

【倉庫需給について】

このところ<mark>倉庫が業界全体で供給過多</mark>のため、 空室率が上昇傾向。倉庫建設はしたが、後付け で荷主を募集しているところもあり、賃料の低 下を懸念している。弊社物件でも一部返却があ り、今後は減収の可能性が高い。(運輸業)

【海外受注の先行き不透明】

今期売上高は前年比増加し、利益も確保できた。 来期については主力である海外からの受注が低 調で、業績がどうなるか不透明。(化学)

【南海トラフ地震臨時情報発表による影響】 今年のお盆は日向灘地震後の南海トラフ地震臨 時情報や台風の上陸などにより宿泊予約の減少 やキャンセルが発生しており、大幅な減収を予 想している。(飲食・宿泊)

【消費性向の弱まり】

物価高や実質賃金の低下により、エンドユーザーの消費性向が弱まっていると感じる。弊社でも顧客からの受注点数の減少が著しいなか、販売単価の引き上げによってなんとか売上を保っている。また、10月以降の最低賃金の大幅上昇や社会保険料の適用拡大、それらに伴う仕入コストの上昇は、中小企業にとって大きな打撃になると思う。(その他非製造業)

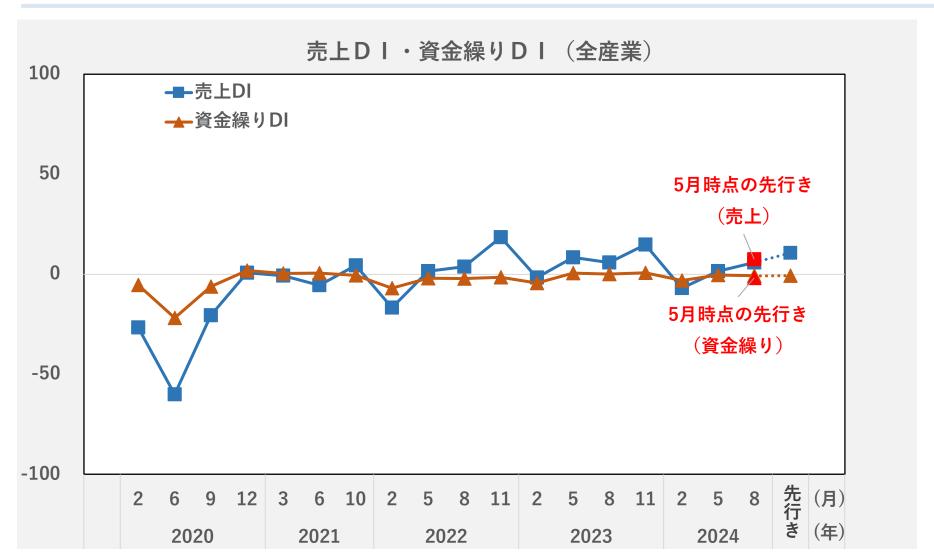


(参考) 第1回調査からの長期時系列推移(景況判断指数)



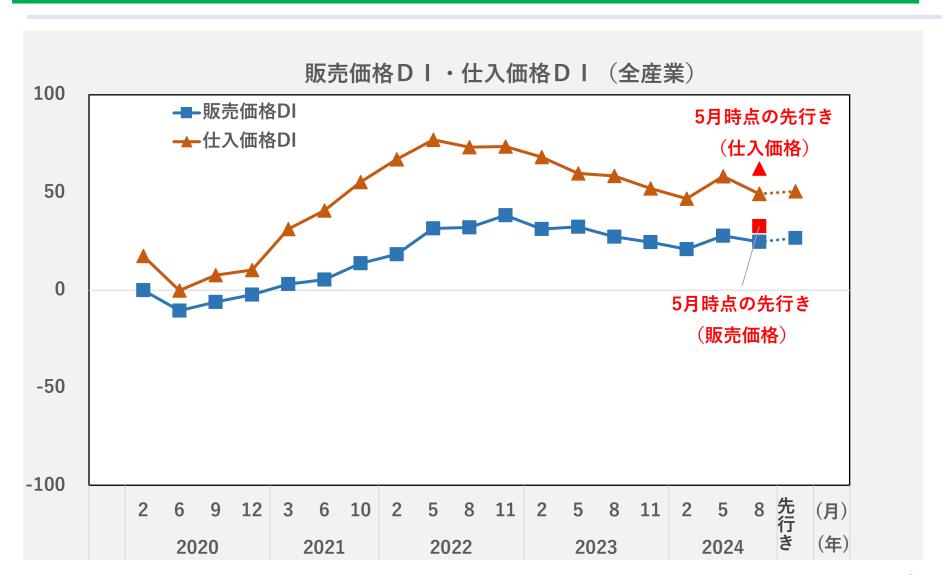


(参考) 第1回調査からの長期時系列推移(売上、資金繰り)





(参考) 第1回調査からの長期時系列推移(販売価格、仕入価格)





(参考) 第1回調査からの長期時系列推移(雇用状況、生産・営業用設備)

